

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 F Dのための情報通信技術講習会

<事業計画>

私立大学・短期大学における教員の教育技術力の向上を支援するため、情報通信技術を用いた教材作成、授業設計、授業運営法等に関する知識・技能の習得を目指した講習を実施する。

<事業の実施状況>

事業の実施は、「F D情報技術講習会運営委員会」を継続設置して、F Dのための情報技術講習会を開催した。以下に運営委員会の活動状況を報告する。

F D情報技術講習会運営委員会

平成23年9月21日、10月25日、12月20日、24年1月30日、2月10日に5回委員会を開催し、延べ34名（平均7名）が出席して、講習会の企画及び実施準備等を実施した。

(1) 開催計画の準備

講習会の基本方針として、情報通信技術の習得を目指すのではなく、授業の改善に情報通信技術をどのように活用すべきか、授業デザインをイメージする中で講習の企画を策定した。参加者が希望するコースの前に、ICTを用いた授業改善の可能性と課題を4つの授業事例により紹介することで、授業デザインのイメージを理解することにした。その上で、参加者の願望に応じて「授業シナリオに基づいた教材作成と効果的な授業の構成法の習得を目的としたプレゼンテーションコース」、「知識の理解と定着を効果的に促進するための新たな視点に立ったビジュアルプレゼンテーション技法の習得を目指すプレゼンテーションアドバンスドコース」、「授業マネジメントの観点から授業デザインの構築に必要な基本知識・技能の理解を深める授業デザインコース」に分かれ講習を受けることとし、以下の通り開催要項を策定した。なお、プレゼンテーションコースの受講者には、パワーポイント操作の技能指導を無料でeラーニングとして実施することにした。

平成23年度F Dのための情報技術講習会開催要項

1. 開催日程：平成24年3月1日(木)～3日(土)
2. 会場：大阪経済大学（大阪府東淀川区）
3. 対象者：情報通信技術を活用した授業改善に関心のある私立大学の教員（助教含む、職員は対象外）
4. 講習会の概要
本講習会では、教員の教育技術力向上を目指すため、情報通信技術を用いた教材作成や授業設計に関する技能や知識の習得を目的とする次の3つのコースを設定します。
5. 共通講義「情報通信技術を活用した授業のあり方」
授業を効果的に行うために情報通信技術をどのように活用できるのか、授業での事

例を通して可能性と課題について体験を踏まえて説明します。その上で授業デザイン・マネジメントの必要性および教育目的でのコンテンツ利用と著作権についての理解を共有します。

① 情報通信技術を活用した授業を考える

田宮徹氏（上智大学理学部教授、FD情報技術講習会運営委員長）

② メディア・情報を活用した動機づけ・複眼的思考を養う授業

佐々木利廣氏（京都産業大学経営学部教授）

③ なぜ立正大学経済学部はクリッカーを選んだのか～授業シナリオ作りに向けて～

今井賢氏（立正大学副学長、経済学部教授）

④ 個々の学びと向き合うためのWeb Reflection Paper(WRP)の活用

北根精美氏（常盤大学国際学部准教授）

⑤ 医系総合大学における電子ポートフォリオシステムの活用と教育改善

片岡竜太氏（昭和大学歯学部教授）

⑥ 高等教育における著作物の利用

中村壽宏氏（神奈川大学大学院法務研究科教授、FD情報技術講習会運営委員）

6. コースのプログラム

（1）プレゼンテーションコース

パワーポイントの使用を前提として、授業シナリオに基づいた教材作成と効果的な授業の構成法の習得を目的とします。

【1日目】到達目標：基本的なプレゼンテーション技術を確認する。

講義：効果的な授業を行うためのシナリオ作り

実習：パワーポイント基本技術の確認、シナリオ作り

【2日目】到達目標：パワーポイントをフルに活用できるようにする。

実習：画像、動画、音声の編集と取り込み、他のアプリケーションとのリンク

演習：授業プレゼンテーションの作成とピア・レビュー

【3日目】到達度：自分なりの授業スタイルを獲得する。

実習：ピアレビューを基にプレゼンテーションの修正

発表：代表作の発表

（2）プレゼンテーションアドバンスドコース

知識の理解と定着を効果的に促進するための新たな視点に立ったビジュアルプレゼンテーション技法の習得を目指します。

【1日目】到達度：様々なプレゼンテーションテクニックを知る。

講義：各種プレゼンテーションメソッドの紹介

実習：自分の資料を各種プレゼンテーションメソッドでアレンジ

【2日目】到達度：ダイナミックなビジュアルプレゼンテーションを作成する。

講義：プレゼンテーションのビジュアル化の方法

実習：Preziを用いたプレゼンテーションの作成

【3日目】到達度：プレゼンテーション資料を活用する。

実習：プレゼンテーションの録画と公開・共有、プレゼンテーションの電子書籍化

（3）授業デザインコース

情報通信技術を取り入れた効果的な授業の設計と授業の進め方について、授業マネジメントの観点から授業デザインの構築に必要な基本知識・技能の理解を深めることを目指します。

【1日目】到達度：授業デザインに基づいた授業シナリオ作成技術を理解する。

講義：授業デザインとシナリオ

実習：授業シナリオの作成

【2日目】到達度：情報通信技術を用いた授業シナリオを試作する。

講義：授業シナリオ作成に必要な情報技術

実習：振り返りによる授業シナリオの改良

ピア・レビュー：グループ内での相互評価

【3日目】到達度：情報通信技術を用いた効果的な授業シナリオを完成する。

実習：ピア・レビューを踏まえた授業シナリオの完成

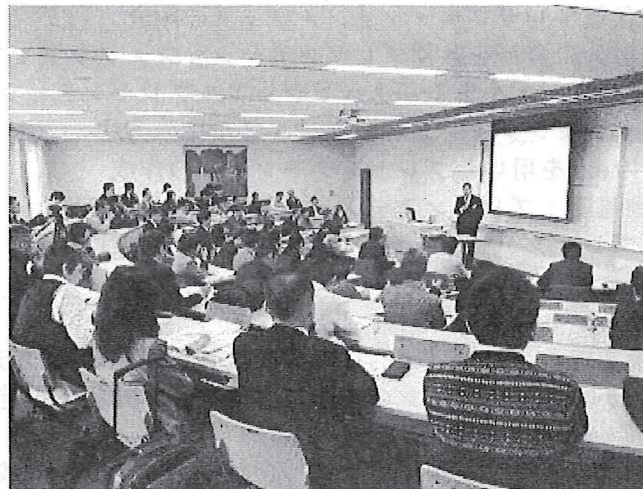
発表：完成した授業シナリオの紹介

(2) 開催結果

参加者は、40大学、3短期大学から57名の参加があり、昨年度より減少した。

I C Tを用いた教材作成、授業設計に関する技能や知識の習得を目的とするため、参加者全員にパワーポイントだけでは成績向上につながらないことの紹介とI C Tの活用方法としての動機づけ・学習意欲の向上、授業中の理解度把握のクリッカー技術、振り返り学習などの紹介と授業で誤解している著作物の取り扱いを紹介し、授業でどのように活用すればよいか気づきを共有した。

その上で、授業シナリオに基づいた教材作成、効果的な授業の構成法の習得の「プレゼンテーションコース」、ビジュアルプレゼンテーション技法の習得を目指す「プレゼンテーションアドバンスコース」、授業マネージメントの観点から授業デザインの構築を目指した「授業デザインコース」に分かれて実施した結果、達成できたは1割から2割で、大半は見通しが立った。なお、3日間で習得することに限界があることから、講習会終了後も運営委員会で可能な範囲で個別に支援することにした。また、講習会終了後、参加者にF D活動をたずねたところ、学内やF D委員会で講習の成果を共有し、さまざまな分野の教員で議論して授業改善につなげたい、双方向授業として学生に問いかけ考えさせる展開を考えたいなどの意見があった。なお、講習会の前に実施したパワーポイント操作のeラーニングの受講者は7名であった。



5-3-2 大学職員情報化研究講習会

<事業計画>

私立大学、短期大学の職員を対象に教育・学習支援力、人材育成支援力の向上を図るため、情報通信技術を活用したマネジメント、業務改善に関する知識・技能の研究講習を実施する。

<事業の実施状況>

事業の実施は、「大学情報化研究講習会運営委員会」を継続設置して、大学職員情報化研究講習会を7月に基礎講習コース、11月に応用コースを開催した。以下に活動状況を報告する。

大学職員情報化研究講習会運営委員会

平成23年4月26日、6月20日、10月18日、24年1月11日に4回委員会を開催し、延べ55名（平均14名）が出席して、以下の通り大学職員情報化研究講習会の企画及び実施準備を行った。

(1) 「基礎講習コース」開催計画の準備

大学職員が大学の運営・意思決定、教育・学修支援などの業務において、情報の重要性を事例を踏まえて理解した上で、課題の洗い出し、討議による問題発見・解決のプロセスを身に付けることを目指して、以下の通り開催要項を策定した。

平成23年度大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース開催要項

1. 開催日程：平成23年7月6日(水)～8日(金)
2. 会 場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）
3. 対 象 者：すべての大学職員（私情協非加盟校も対象）
4. 開催趣旨

大学が掲げる「学士力」や教育の質の保証を実現し、次代を担う人材育成、国際化への対応や生涯学習など、大学教育に対する時代の要求に応えていくためには、戦略的な計画立案と教育環境の構築が不可欠であり、大学職員には、大学の直面する課題について、その解決に必要な情報を収集、分析、評価し、解決策を提案・実行する、情報活用能力と実行力が求められる。

本協会では、大学職員に求められるこれらの能力養成を支援するために、「基礎講習コース」（本コース）と、専門性を考慮した分科会を構成して、事例研究を踏まえて研究討議する「応用コース」（11月開催）の、2つの研究講習会を実施している。

本コースは、大学を取り巻く環境や求められる役割、大学職員に求められる能力、大学運営等における情報の活用事例を講義で紹介する。勤務年数の浅い方々や他業種からの転職者には大学という職場や職員の役割を学ぶ機会を、中堅層や管理職には自大学、自己の職場、自己の役割を振り返る機会を提供するとともに、日常の勤務では経験できない、多様な経験や価値観を持つ他大学職員とのグループ討議を通して、問題発見から解決に向けてのプロセスを経験し、情報活用の重要性を理解し、その活用による問題解決能力を高めることを目的とする。

5. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を獲得することを目指します。

- ① 大学を取り巻く環境、社会が大学に求める役割についての認識を深める。
- ② 大学職員に求められる役割と能力（「職員力」）について理解する。
- ③ 情報を活用することの重要性を理解し、その活用による問題解決能力を高める。
- ④ 問題解決のプロセスを実践し、理解する。
- ⑤ 参加者間の人的ネットワークを構築する。

6. 講習の進め方

本コースのねらいを達成するために、次のステップで研修を行います。

- ① イントロダクションでは、大学の使命、大学職員に求められる能力や姿勢について説明します。
- ② 講義では、大学を取り巻く環境の変化、大学の運営や意思決定、学修支援や学生指導における情報活用事例を踏まえて、情報を活用することの重要性について説明します。
- ③ グループ討議では、講義を参考に各自が職場における課題を洗い出し、グループとしてのテーマを設定し、討議や創造技法を用いた分析等をとおして問題解決のプロセスを経験します。
- ④ 本コース参加の総括として、“自己のアクションプラン”を作成します。

7. 全体会概要

(1) イントロダクション「大学職員に求められる能力」

木村増夫氏（上智大学学生局長、大学職員情報化研究講習会運営委員会委員長）

本コースのねらい、大学の使命、大学職員に求められる能力や姿勢について説明し、研修を始めるにあたっての基本的な認識の共有を図る。

(2) 「大学運営と情報の活用」

齋藤真左樹氏（日本福祉大学執行役員、大学事務局長）

大学は、教育・研究の成果をはじめとして情報の宝庫といえる。しかしその情報は活用されなければ意味を持たない。情報を活用するためには情報環境の整備もさることながら、それを活用する能力が問われる。高等教育のユニバーサル化、グローバル化、大学認証評価と教育の質保証など、大学を取り巻く環境変化に迅速かつ柔軟に対応するために、情報を最大限活用することによって、教育改革、業務改革、経営支援などを行う時代である。

学生・教員に、より充実した学問・研究の場を提供し、大学の使命を果たすために、大学運営の根幹を支える情報の活用の重要性について、経営戦略や組織改革など、組織における意思決定のプロセスを中心に、本学の事例も紹介しながら解説する。

(3) 「情報技術を活用した教育支援・人材育成支援に求められるもの」

齊藤和郎氏（札幌学院大学教務部事務部長、大学職員情報化研究講習会運営委員会副委員長）

教育改革を推進する手段として、情報技術の活用は有効である。一方で、単に情報技術を導入しただけでは本来の目的を達成できないことも確かである。

目標を明確化し、その到達度を適正に評価・分析し、次の改善につなげていく。こういったプロセスを教職員の組織的な連携によって展開し、例えば、「自分たちの大学も変わることができる」、「何よりも自分たち自身が変わることが大切だ」という気づきの中で人と組織がともに変革していくような場の形成が求められているのかもしれない。先行事例を参照しながら、情報技術を活用した教育支援・人材育

成支援を展開する際に、わたしたち職員が備えるべき視点、担うべき役割について受講者と一緒に考えてみる。

8. グループ討議概要

第1ステージ：グループとしてのテーマ（課題）設定

第2ステージ：課題解決に向けてのディスカッション

第3ステージ：研修成果のまとめ、グループとして結論をまとめ発表資料を作成

第4ステージ：成果発表・意見交換

(2) 「基礎講習コース」開催結果

参加者は、82大学180名の参加があり、昨年度より減少した。

大学職員に求められる基本的な役割とICTを活用することの重要性を認識し、大学が抱えている課題の発見・認識を行い、ICTを活用した組織的な取り組みについてグループディスカッションを通じて身に付けることを目指した。実施結果は、本質的な課題の発見では、自分の意見を交えながら具体的に課題発見できるが3分の1、大学の現状を説明できるが6割でおおむね達成できた。ところがICTを活用して独創的・斬新的なアイデアを提示できたのが2割、アイデアを提示できたが独創的・斬新的ではなかったが6割と達成度は低かった。今後の課題としては、課題発見まではほとんどのグループで議論できなかったことから、課題認識の共有化を図る必要があること、及び前年度講習会を学習した上で参加する必要があるなどの工夫を検討することにした。開催結果の詳細は、巻末のⅢ. 事業報告の附属明細書【2-16】を参照されたい。

(3) 「応用コース」開催計画の準備

学士課程教育が直面する危機的状況を認識した上で、課題解決に向けて力が発揮できるよう、ICT（情報コミュニケーション技術）の戦略的な活用、情報システム構築の課題、情報の取り扱い、持続可能な情報環境の在り方などを中心に、コーディネートやマネジメントに関する意識の獲得、解決する上での視点の獲得、人的ネットワークを活用して情報収集や意見交換を行う場の形成を目指して、以下の通り、開催計画を策定した。

平成23年度大学職員情報化研究講習会 応用コース開催要項

1. 開催日程：平成23年11月9日（水）～11日（金）
2. 会場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）
3. 対象者：私立大学・短期大学に所属する教職員で、中堅職員の方（採用後おおむね3年以上、私情協非加盟校も対象）、本研究講習会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方

4. 開催趣旨

大学職員には、大学の直面する課題を認識し、その解決に必要な情報を収集・分析・評価し、解決策を提案・実行する情報活用能力と実行力、組織マネジメント能力が求められる。

本コースは、学士課程教育が直面する危機的状況を認識し、これを打開するために大学職員が担うべき職務を再認識し、課題解決に向けて力が発揮できるよう、ICT（情報コミュニケーション技術）の戦略的な活用、情報システム構築の課題、情報の

取り扱い、持続可能な情報環境の在り方などを中心に研究討議する。

5. 期待される成果

- ・ 大学教育を取り巻く環境の変化について認識を深めるとともに、今まで気づかなかった自大学の現状や課題を発見する。
- ・ これからの大学職員に求められる役割を大学の教育目標との関係から捉えなおし、大局的な視野でコーディネートやマネジメントに関わろうとする意識を獲得する。
- ・ 大学の情報化を推進しようとする際に向き合わなければならない人的、組織的課題を認識するとともに、これを解決する上での視点を獲得する。
- ・ ここで培った他大学職員との人的ネットワークを活用し、研究講習会終了後も自大学の課題解決にあたっての情報収集や意見交換を行う場を形成する。

6. 全体会

(1) イントロダクション

木村増夫氏（上智大学学生局長、大学職員情報化研究講習会運営委員会委員長）
研修運営委員長より本コースの開催趣旨と大学を取り巻く様々な課題について解説を行い、研修を始めるにあたっての基本的な認識を共有します。

(2) 解説「戦略的に＜情報＞を活用するとは何か」

正木卓氏（同志社大学研究開発推進機構事務部長、大学職員情報化研究講習会運営委員）

研修運営委員より次の観点から解説を行い、情報活用戦略を構想・設計し、その運用と評価を担う大学職員のあるべき姿について考察します。

- ・ 情報を活用するとはどういうことなのか？
- ・ 情報を取り扱うことにおける課題とは？
- ・ 「戦略情報」が成功しないのはなぜか？
- ・ 「教育情報公開」という時代の要請に大学はどう応えるか？

(3) 講演 「高等教育の質保証と教育情報の公表」

川嶋太津夫氏（神戸大学大学教育推進機構教授）

学校教育法及び大学設置基準等により教育研究活動等の状況を公表することが規定されています。しかし、日本の大学はその目的を認識しているのでしょうか。公表の基準がない中で大学間の相互比較はできるのでしょうか。ここでは、次の観点から教育情報の公表について考えてみます。

- ・ 中央教育審議会での議論の経過
- ・ 情報公表の現状（国立大学を中心に）
- ・ 情報公表のあるべき姿

7. 実施分科会

第1分科会：「ポートフォリオ」や「学生カルテ」などの学生情報を活用するためのICTマネジメント

第2分科会：教職協働で進める教育改善支援

第3分科会：大学の情報公表とICTの戦略的活用

第4分科会：大学図書館が取り組むべき学習支援・教育支援の探究

第5分科会：情報活用の重要性和情報システム部門の役割

第6分科会：教職員・学生間のコミュニケーションを活性化するためのICT活用戦略

(4) 「応用コース」開催結果

参加者は、54大学、賛助会員企業4社、93名の参加があり、昨年度より減少した。

(4) 「応用コース」開催結果

参加者は、54大学、賛助会員企業4社、93名の参加があり、昨年度より減少した。

講習会全体を通じて、大学職員としての資質向上と人的ネットワークの形成が図られたと考える。本コースが掲げる四つの期待される効果について、参加者のアンケート集計から達成度は次のような状況であった。

- ① 大学教育を取り巻く環境の変化の認識を深め、今まで気づかなかった自大学の現状や課題の発見については、9割が達成できた。
- ② 大学職員に求められる役割を大学の教育目標との関係から捉えなおし、大局的な視野でコーディネートやマネジメントに関わろうとする意識の獲得については、8割が達成できた。
- ③ 情報化の推進に向き合わなければならない人的、組織的課題の認識と解決する上での視点の獲得については、7割が達成できたが、3割が達成できなかった。

以上の結果を踏まえ、参加者数の減少を分析するため、アンケート等により本コースのニーズ調査を行い、その結果を踏まえて本協会の独自性を活かした講習プログラムの再構築について具体的な検討に着手することにした。開催結果の詳細は、巻末のⅢ. 事業報告の附属明細書【2-16】を参照されたい。



基礎講習コース



応用コース